

## 2020年度第1四半期決算について

### <損益実績(連結)>

(単位:億円)

	2020 1/四	2019 1/四	'19.1/四→ '20.1/四
売上収益	11,316	15,224	- 3,908
事業利益 ※1	▲ 275	606	- 881
[ROS]	[-2.4%]	[4.0%]	[-6.4%]
親会社の所有者に 帰属する当期利益	▲ 420	333	- 753
<1株当たり当期利益>	<-45.7>	<36.2>	<-81.9>
[ROE]	[-6.5%]	[4.1%]	[-10.6%]
E B I T D A ※2	412	1,651	- 1,239
有利子負債	27,336	25,057	+ 2,279

劣後ローン・劣後債資本性調整後D/Eレシオ

0.85                      0.70                      + 0.15

(※1) 事業利益とは、持続的な事業活動の成果を表し、当社グループの業績を継続的に比較・評価することに資する連結経営業績の代表的指標であり、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費、並びにその他費用を控除し、持分法による投資利益及びその他の収益を加えたものであります。その他収益及びその他費用は、受取配当金、為替差損益、固定資産除却損等から構成されております。

(※2) 事業利益 + 減価償却費

(※3) 連結事業利益差異の内訳

(単位:億円)

2019.1/四  
→2020.1/四

連結事業利益 差異	-880
<b>1. 製鉄事業</b>	<b>-870</b>
① 生産出荷	-850
② 販売価格・構成	-270
③ 原料価格(キャリーオーバー含む)	+120
④ コスト改善(減産によるコストデメリット含む)	+430
⑤ 減価償却費(減損・定額法変更影響含む)	+300
⑥ 在庫評価差	-210
⑦ グループ会社	-310
⑧ 為替影響(ストック、フロー)	-20
⑨ 19FY災害影響	+80
⑩ その他	-140
<b>2. 鉄以外セグメント</b>	<b>-80</b>
<b>3. 調整額</b>	<b>+70</b>

### <諸元>

(1) 当社

	2020 1/四	2019 1/四	'19.1/四→ '20.1/四
連結粗鋼生産量(万t)	830	1,244	- 415
単独粗鋼生産量(万t) *1	720	1,099	- 379
鋼材出荷量(万t) *1	712	981	- 269
鋼材価格(千円/t) *1	86.0	88.8	- 2.9
為替(円/\$)	108	111	3円高

\*1 日鉄日新製鋼(2020年4月1日に合併)を含む(両社間の取引補正後)

(2) 全国

粗鋼生産量(万t)	1,812	2,611	- 800
鋼材消費(万t) *2	1,182	1,505	- 323
(うち 製造業)	(704)	(981)	(- 277)
<製造業比率>	<59.6%>	<65.2%>	<- 5.6%>
普通鋼鋼材消費(万t)	954	1,188	- 233
建設	460	505	- 45
製造業	494	683	- 188
特殊鋼鋼材消費(万t)	228	318	- 90
国内メーカー間在庫(万t)	*3 571	612	- 42
薄板三品在庫(万t)	*3 430	457	- 27

\*2 当社推定値    \*3 6月末(速報)

### <セグメント情報>

売上収益	11,316	15,224	- 3,908
製鉄	9,996	13,467	- 3,471
エンシニアリンク	732	784	- 52
ケミカル&マテリアル	371	544	- 173
システムソリューション	590	821	- 231
調整額	▲ 374	▲ 392	+ 18

事業利益	▲ 275	606	- 881
製鉄	▲ 305	560	- 865
エンシニアリンク	53	38	+ 15
ケミカル&マテリアル	▲ 31	35	- 66
システムソリューション	51	79	- 28
調整額	▲ 43	▲ 108	+ 65

## 2020年度上期及び年度見通しについて

<損益見通し(連結)>

	2020上見		2019年度			'19上期→ '20上見	2020FY見		'20上見→ '20下見
	うち、1/4	うち、1/4	2019上期	2019下期	うち、下見		うち、下見		
売上収益	22,000	11,316	59,215	30,471	28,743	-8,471			
減損等前事業利益 [ROS]	▲1,500 [-6.8%]	▲275 [-2.4%]	765 [1.3%]	731 [2.4%]	34 [0.1%]	○-2,231 ※4 [-9.2%]	▲1,200	300	○+1,800 ※4
減損損失等	-	-	▲3,609	-	▲3,609	-	-	-	-
事業利益 ※1 [ROS]	▲1,500 [-6.8%]	▲275 [-2.4%]	▲2,844 [-4.8%]	731 [2.4%]	▲3,575 [-12.4%]	-2,231 [-9.2%]	▲1,200	300	+1,800
親会社の所有者に 帰属する当期利益 <1株当たり当期利益>	▲2,000 ※2 <-217.0>	▲420 ※2 <-45.7>	▲4,315 ※2 <-468.7>	387 ※2 <42.1>	▲4,702 ※2 <-510.8>	-2,387 ※2 <-259.1>			
<b>E B I T D A</b> ※3	0	412	4,668	2,849	1,819	-2,849	1,900	1,900	+1,900

(※1) 事業利益とは、持続的な事業活動の成果を表し、当社グループの業績を継続的に比較・評価することに資する連結経営業績の代表的指標であり、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費、並びにその他費用を控除し、持分法による投資利益及びその他収益を加えたものであります。その他収益及びその他費用は、受取配当金、為替差損益、固定資産除却損等から構成されております。

(※2) 個別開示項目▲400(小倉地区鉄源設備休止関連損失等)含む

(※3) 事業利益 + 減価償却費 + 減損損失

<諸元>

(1) 当社

連結粗鋼生産量(万t)	1,700程度	830	4,705	2,427	2,279	-727程度	3,630程度	1,930程度	+230程度
単独粗鋼生産量(万t) *1	1,490程度	720	4,185	2,155	2,030	-665程度	3,180程度	1,690程度	+200程度
鋼材出荷量(万t) *1	1,410程度	712	3,870	1,986	1,884	-576程度	2,970程度	1,560程度	+150程度
鋼材価格(千円/t) *1 為替(円/\$)	83程度 106程度	86.0 108	88.3 109	88.6 109	88.0 109	-5.6程度 3円高程度			

\*1 日鉄日新製鋼(2020年4月1日に合併)を含む(両社間の取引補正後)

(2) 全国

粗鋼生産量(万t) *2	3,580程度	1,812	9,843	5,066	4,776	-1,486程度			
鋼材消費(万t) *3 (うち製造業) <製造業比率>	2,433 (1,495) <61.4%>	1,182 (704) <59.6%>	5,939 (3,802) <64.0%>	3,038 (1,964) <64.7%>	2,902 (1,838) <63.4%>	-605 (-469) <-3.2%>	5,020程度 (3,150程度) <63%程度>	2,580程度 (1,650程度) <64%程度>	+150程度 (+160程度) <+3%程度>
普通鋼鋼材消費(万t)	1,945	954	4,731	2,409	2,322	-463			
建設業	902	460	2,057	1,034	1,023	-132			
製造業	1,044	494	2,674	1,375	1,299	-331			
特殊鋼鋼材消費(万t)	488	228	1,208	629	579	-141			

\*2 経済産業省見通し \*3 当社推定値

<セグメント情報>

	2020上見		2019年度				2020FY見		
	22,000	11,316	59,215	30,471	28,743		うち、下見	うち、下見	
売上収益	22,000	11,316	59,215	30,471	28,743	-8,471			
製鉄	19,300	9,996	52,573	27,041	25,531	-7,741	▲1,300	250	
エンジニアリング	1,500	732	3,404	1,579	1,824	-79	80	20	
ケミカル&マテリアル	750	371	2,157	1,141	1,015	-391	0	65	
システムソリューション	1,200	590	2,732	1,502	1,230	-302	220	125	
調整額	▲750	▲374	▲1,652	▲793	▲859	+43	▲200	▲160	
事業利益	▲1,500	▲275	▲2,844	731	▲3,575	-2,231	▲1,200	300	
製鉄	▲1,550	▲305	▲3,253	492	▲3,745	-2,042	▲1,300	250	
エンジニアリング	60	53	107	51	55	+9	80	20	
ケミカル&マテリアル	▲65	▲31	184	113	70	-178	0	65	
システムソリューション	95	51	261	149	111	-54	220	125	
調整額	▲40	▲43	▲144	▲76	▲68	+36	▲200	▲160	

(※4) 減損等前連結事業利益差異の内訳

(単位: 億円)

2019上期 → 2020上見  
2020上見 → 2020下見  
2019年度 → 2020年見

減損等前連結事業利益 差異	-2,230	+1,800	-1,970
<b>1. 製鉄事業</b>	<b>-2,050</b>	<b>+1,800</b>	<b>-1,630</b>
① 生産出荷	-1,800	+550	-2,800
② 販売価格・構成	-800	+330	-1,020
③ 原料価格(キャリアオーバー含む)	+240	-240	+490
④ コスト改善(減産によるコストデメリット含む)	+760	+280	+1,400
⑤ 減価償却費(減損・定額法変更影響含む)	+590	-130	+1,100
⑥ 在庫評価差	-330	+190	-380
⑦ グループ会社	-860	+520	-1,110
⑧ 為替影響(ストック、フロー)	-20	~	-20
⑨ 19FY災害影響	+230	~	+420
⑩ その他	-60	+300	+290
<b>2. 鉄以外セグメント</b>	<b>-220</b>	<b>+120</b>	<b>-240</b>
<b>3. 調整額</b>	<b>+40</b>	<b>-120</b>	<b>-100</b>

### 【剰余金の配当(第2四半期末)について】

当第2四半期末の剰余金の配当については、当期の業績見通し等を踏まえ、誠に遺憾ではありますが、実施を見送ることとさせていただきます。

引き続き厳しい経営環境が続くことが予想されますが、安定生産の定着、紐付価格のさらなる改善、固定費の圧縮等によるベース実力の着実な向上とともに、最適生産体制への移行を加速すること等により、収益基盤の立て直し・強化と財務体質の改善を早期に実現し、株主の皆様に対する利益還元を図ってまいります。

(注) 上記予想には本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 足元の経営環境と当社の対応

### 1. 足元の経営環境（新型コロナウイルス影響による需要急減と減産対応）

- ・上期をボトムに下期は製造業を中心に回復する見込み(ただし、コロナ前に対しては低位)
- ・当社連結事業利益は、数量急減により上期は大幅赤字、下期は黒字化の見通し
  - 連結事業利益** 上期:▲1,500 億円(注)、下期:300 億円、年間:▲1,200 億円
  - (注) 1Q 実績:▲275、2Q 見通し:▲1,225 ~1Q→2Qの損益変動の大部分は、固定費、受取配当金等の期間差等
- ・高炉バンキング等、迅速な減産対応を実行。低所要下における安定生産と経済生産の両立を推進中
  - 国内鋼材消費量 上期:24 百万 t(うち、製造業 15 百万 t)、下期:26 百万 t(うち、製造業 17 百万 t[対 20 上期+2 百万 t程度])、年間:50 百万 t 程度(うち、製造業 32 百万 t)の見通し(対前年度▼9 百万 t)
  - 当社単独粗鋼量 上期:15 百万 t(稼働率 60~70%程度)、下期:17 百万 t(稼働率 80%程度)、年間:32 百万 t 程度

### 2. 2020 年度損益・キャッシュフロー対策及び単独営業損益黒字化に向けた取り組み

#### (1) ベース実力の着実な向上 : 安定生産の定着、紐付価格のさらなる改善、固定費の圧縮

- ① 固定費の大幅圧縮(2020 年度:2,000 億円規模/年)による損益分岐点引き下げ
- ② 実力操業諸元の改善による変動費低減(2020 年度:500 億円以上/年)
  - ・減産コストデメリットは固定費圧縮の追加対策・変動費改善(上記外数)等で吸収
- ③ 紐付価格是正への継続的な取り組み

#### (2) 資金・財務面の対応

- ① 資産圧縮 4,000 億円+αから 5,000 億円以上/3 年に引き上げ、キャッシュフロー・財務体質の改善に取り組み
- ② 設備投資効率化 2020 年中期計画期間内の設備投資総額を▽3,000 億円程度圧縮(1.7 兆円→1.4 兆円)
- ③ 資金調達、流動性管理
  - ・ハイブリッドローンによる資金調達 4,500 億円(20 年 7 月実行、資本金性 50%認定を格付機関より取得)
  - ・手元現預金 3,906 億円(対 20.3 末+1,011 億円)、安全性補完のためのコミットメントライン契約(当社連結:6,658 億円[20.3 末])

### 3. アフターコロナの経営環境想定

#### (1) 需要面

(国内)人口減・高齢化による需要低迷・縮小の懸念、米中対立の常態化による貿易縮小がもたらす間接輸出減少(輸出) 製造業における地産地消・自国産化の加速、エネルギー分野・新興国の鉄鋼需要低迷

#### (2) 競合面

- ・中国における、いち早い経済活動の再開を背景に中国鉄鋼メーカーの相対的な優位性拡大
- ⇒従来からの市場構造変化が、新型コロナウイルス影響で加速化し、さらに厳しい事業環境となることを前提に必要な構造対策の前倒し・追加を検討

### 4. 中長期的な収益基盤強化に向けた取り組み

#### (1) 構造改革効果の発揮と構造的固定費対策の推進

- ・既公表構造対策収益効果 年率○1,000 億円の早期発揮(うち、2020 年度発揮○350 億円)
- ・投入費用の取捨選択の徹底による償却費・修繕費等の増加抑制・圧縮、必要に応じてさらなる構造対策を検討

#### (2) 品種構成高度化(高付加価値商品の拡大)

- ・電磁鋼板能力・品質向上対策を推進中

#### (3) 地産地消に対応した海外事業の深化

- ・インド等成長する地域・分野での展開、不採算事業からの撤退による、選択と集中

#### (4) 気候変動対策への対応

- ・経団連「チャレンジ・ゼロ」宣言に賛同。イノベーション事例として当社の 10 プロジェクトを登録

日本製鉄株式会社

コード番号 5401 上場取引所 東京、名古屋、札幌、福岡

問合せ先 責任者役職名 広報センター所長

氏 名 有田 進之介

TEL (03)6867-2135、2146、2977、3419

<2021年3月期 第1四半期決算 補足情報>

[全国]

1. 粗鋼生産量

単位:万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
2019年度	2,611	2,455	5,066	2,365	2,411	4,776	9,843
2020年度	1,812	1,770程度 <sup>(※)</sup>	3,580程度				

<sup>(※)</sup>経済産業省見通し

2. 在庫推移

	国内メーカー問屋在庫 万トン	(在庫率) %	薄板三品：熱延＋冷延＋表面処理 万トン	ときわ会H形鋼 万トン
2018. 6 末	593	(149.3)	441	20.7
2018. 7 末	568	(143.0)	420	20.8
2018. 8 末	601	(170.7)	439	20.4
2018. 9 末	623	(176.5)	440	19.8
2018.10 末	587	(132.0)	426	18.4
2018.11 末	559	(133.8)	414	18.4
2018.12 末	574	(151.6)	417	18.7
2019. 1 末	597	(154.0)	440	19.5
2019. 2 末	593	(152.5)	441	20.8
2019. 3 末	593	(141.6)	447	21.9
2019. 4 末	602	(160.1)	454	22.7
2019. 5 末	611	(164.7)	462	22.7
2019. 6 末	612	(161.2)	457	22.0
2019. 7 末	582	(145.6)	442	20.6
2019. 8 末	612	(188.8)	457	19.8
2019. 9 末	595	(157.7)	445	19.1
2019.10 末	585	(155.4)	433	18.2
2019.11 末	580	(158.0)	434	18.0
2019.12 末	582	(172.0)	432	19.1
2020. 1 末	591	(173.0)	444	19.6
2020. 2 末	597	(178.4)	449	19.6
2020. 3 末	579	(158.5)	439	19.4
2020. 4 末	579	(193.7)	435	18.1
2020. 5 末	593	(225.4)	446	17.8
2020. 6 末*	571	(195.5)	430	16.6

\*2020.6末は速報値

〔当社〕

## 3. 出銑量（当社＋北海製鉄）

2019年度<sup>(※1)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	1,033	1,018	2,052	965	993	1,958	4,009
日鉄日新製鋼	76	65	142	58	49	107	248
合計	1,109	1,084	2,193	1,022	1,042	2,064	4,257

2020年度<sup>(※2)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	756	750程度	1,510程度				

## 4. 粗鋼生産量

【連結ベース】 当社＋連結子会社

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
2019年度	1,244	1,182	2,427	1,124	1,155	2,279	4,705
2020年度	830	870程度	1,700程度			1,930程度	3,630程度

【参考：単独ベース】

2019年度<sup>(※1)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	1,027	995	2,022	942	990	1,932	3,954
日鉄日新製鋼	71	61	132	53	46	99	231
合計	1,099	1,056	2,155	994	1,036	2,030	4,185

2020年度<sup>(※2)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	720	770程度	1,490程度			1,690程度	3,180程度

## 5. 鋼材出荷量

2019年度<sup>(※1)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	908	930	1,838	877	865	1,741	3,580
日鉄日新製鋼	73	75	148	69	73	142	290
合計	981	1,005	1,986	946	938	1,884	3,870

2020年度<sup>(※2)</sup>

単位：万トン

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	年度
日本製鉄	712	700程度	1,410程度			1,560程度	2,970程度

## 6. 鋼材平均価格

2019年度<sup>(※1)</sup>

単位:千円/トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
日本製鉄	88.2	87.8	88.0	87.7	87.0	87.4	87.7				
日鉄日新製鋼	96.5	96.8	96.6	95.4	95.9	95.7	96.2				
合計	88.8	88.5	88.6	88.3	87.7	88.0	88.3				

2020年度<sup>(※2)</sup>

単位:千円/トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
日本製鉄	86.0	80程度	83程度								

## 7. 鋼材輸出比率 (金額ベース)

2019年度<sup>(※1)</sup>

単位:%

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
日本製鉄	40	41	40	40	41	40	40				
日鉄日新製鋼	11	10	11	10	11	11	11				
合計	38	38	38	38	38	38	38				

2020年度<sup>(※2)</sup>

単位:%

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
日本製鉄	39	40程度	39程度								

## 8. 為替レート

単位:円/\$

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2019年度	111	108	109	109	109	109	109				
2020年度	108	105程度	106程度								

## 9. 設備投資額 (工事ベース) 及び減価償却費

【連結ベース】

単位:億円

	設備投資額	減価償却費
2019年度	4,813	4,173
2020年度	4,800程度	3,100程度

(※1) 2019年度は、日本製鉄と日鉄日新製鋼の合算値 (両者間の取引補正後)

(※2) 2020年度は、日鉄日新製鋼と合併後の数値

以 上